

招へい研究者報告書

招へい研究者氏名	ベトナム国家大学(ハノイ)(ベトナム) グエン ティ・ハーティン			
招へい期間	(西暦) 2023年6月3日～2023年8月29日			
受入機関	関西大学東西学術研究所			
受入担当者	所属	文学部	資格	特別契約教授
	氏名	野間 晴雄		

○研究者向け講演会タイトル:

ベトナム・ハノイの社会空間の細分化—そのイメージと社会経済的含意—

Socio-Spatial Fragmentation of Hanoi City: Images and Socio-Economic Implication

○日時: 2023年7月27日(木) 15:10~16:10

○概要: ハノイ直轄市はベトナムの北部の首都で、10区18県1市社からなり、総人口830万人である(ハノイ統計局, 2021年)。ハノイは1000年以上の歴史があり、リ・タイトー(李公蘊, Lý Thái Tổ)王が、ニンビン省のホアルー(Hoa Lư)に代って、ハノイを城塞都市とした。このハノイの市街地(区に相当)には5つの社会空間が想定され、その特色は以下である。

1) 旧市街: 魅力的な中心ビジネスエリア, 2) フランス人街: 街の優雅で高貴な部分, 3) 団地地区: 活気に満ちているが、街の俗悪的な部分, 4) 新都市部: 高層ビル街, 5) 旧村落部。

1) はハノイの商業中心地である。都市観光の目玉である同業者町地区と、現代的ビジネス街が混在する。その特徴はチューブハウス(間口が狭い個人住宅)で、赤瓦屋根、木製引き戸、幅3~4メートル、長さ40~50メートルの2階建てが主流だったのが、分割や増階を重ね、混沌とした市街地風景を呈している。2) のフランス人居住区は1875年から建設が開始され1945年まで拡大が続いた。居宅、公共インフラ(病院、学校、郵便局、鉄道駅、行政機関、銀行、兵舎など)で構成され、アール・デコ、ネオ・ゴシック、ローカル・フレンチ、インドシナ建築などのさまざまな建築様式があるが、保護・保全計画が不十分で、資金不足のため、建物が劣化している。3) の団地(ベトナム語でKhu tập thể)は、主にインドシナ戦争後の経済復興期、1954年から1980年代にかけて旧ソ連の公営住宅をモデルにして旧ソ連の援助で建設されたが、老朽化が著しい。住民の経済階層が高くないが、市街地の中心に比較的近く良質な公立学校や公立診療所があるため不動産価値は高い。4) が国内、外国資本による水田を潰した、高層のコンドミニアム、オフィスビル、大型商業地区である。地価の高騰が著しく、投機の対象ともなっている。幼稚園や小学校、公園の不足が課題である。富裕層向けに住民以外の敷地内への出入りを制限したゲーテッドコミュニティ(gated community)も増加している。その谷間にあるのが5) の旧村落で、新市民との混住化もみられる。いまなお、ハノイ市民向けに食品製造などおこなっている地区もある。

○学生向け講演会タイトル

ベトナム島嶼ツーリズムの可能性と課題

Island Tourism of Vietnam: Opportunities and Challenges

○日時: 2023年7月4日(火) 12:15~13:30

○概要: 発展途上国ベトナムでも国民の所得の上昇や、意識の変化によって、国内旅行が活発化している。ベトナムには、地質、地形(サンゴ礁、マングローブ)、気候の異なる多様な動植物が生息する2700有余もの島がある。うち有人島は66である。これらの島嶼では自然保護区域が設定されているものも多いが、観光開発による環境改変、汚染やごみ問題、外来種による環境破壊、オーバーツーリズムやテーマパーク建設による文化的退廃、収益の不平等分配などが問題となっており、民の生計形態の多様化も進んでいる。主要な島嶼観光地は、北部のハロン湾、バイトゥロン湾の海中カルスト景観や、中南部のナチャン海岸、南部のコンダオ諸島、フーコック島が著名である。とりわけ国内観光客の急激な伸びはタイ湾の島、かつてはニョクマムの産地であったフーコック島で著しく(年間500万人で、過去5年で約3倍)、持続不可能な開発への警鐘となっている。いずれにせよ、ベトナムでは、島嶼観光のよりよき方向へ早急な対策が必要となっている。